



住宅部門  
事例

10

空き家利活用コンテスト2024 最優秀賞

M邸

家を受け継ぎ、  
地域に根差し未来へバトンを渡す家



構造上撤去できない大梁（元々は鴨居）は残し、天井裏に隠れていた丸太梁をあらわしにして意匠的に活かした。

祖母が長年大切に暮らしていた家。祖母の入院後は空き家となっていたが、それまでの手入れがよく、家の状態が良好だったことや、お子さんを自然豊かな環境で育てたいという思いから、リノベーションを決意。

既存の梁や無垢板漆喰塗、建具等は補修して活かし、一方間取り変更が必要な部分は大胆に改修。残すものと新設するものを見極め、ライフスタイルに合った快適な空間へと生まれ変えた。

また、デザインだけでなく断熱や省エネ性能も向上させることで、新築同様の快適性を確保した。

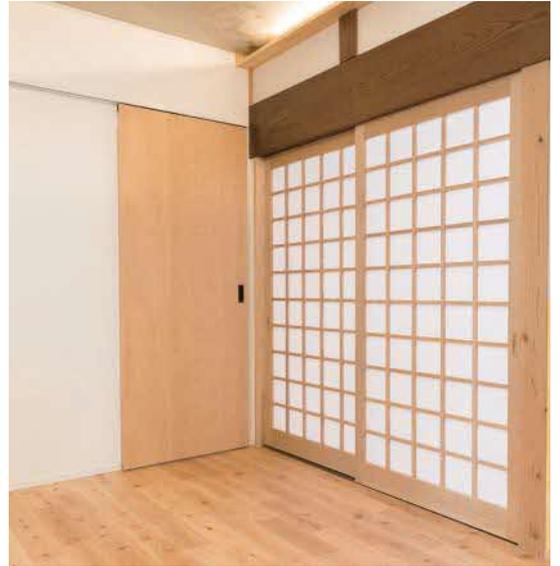
古民家リノベーションに強い工務店を探すのが苦労だったが、協力した工務店や職人達の知恵と技を使って、古民家の魅力を活かしながら快適な住空間を実現。祖母が大切にしてきた家を新たな世代が引き継ぎ、地域に根ざした暮らしを実現した。家の価値は活かし方次第で未来へとつながる——そんな思いが込められた住まいとなった。



各部屋に高低差のあった1階の床はバリアフリー化し、断熱材を入れることで、快適な住空間へと生まれ変わった。



大工・左官・建具等々、各所に地元の職人さんたちの技術やアイデアが施されている。



縁側の壁には耐震壁を設けて耐震性を確保。また樹脂サッシにより大きく明るいガラス面でも断熱性を確保している。





天井高170cmだった2階居室。梁は天井裏に隠しつつ、屋根勾配に沿って天井を組み直した。



[ DATA ]

- 【所在地】八頭郡八頭町 【構造】木造2階建て
- 【築年月】1946年 【改修後の用途】住居
- 【間取り構成】LDK・個室7室・キッチン・トイレ・風呂・洗面・ランドリー室
- 【改修期間】2023年4月～10月
- 【改修費用】約2,600万円
- 【設計者】有限会社ふくた